

フェリス女学院における健康・スポーツ教育の過去・現在・未来 ～多文化共生の新たな展開～

大河内君子

今日のスポーツは世界中に普及しており、多様な文化や価値観をもつ世界中の国々で、国民のアイデンティティ、共同体意識や帰属意識を高めるために利用されています。また、世界共通のコミュニケーション手段として国家間の連携を深めており、その為に政治的に利用されることもあります。

女性にとってのスポーツは、健康維持や余暇活動のために重要視されるだけでなく、より美しくなる為のスポーツ教室や講習会など、今後も更に人気を高めていきそうです。

フェリス女学院創設の頃（1870～）、ようやく教育の中で男女平等が唱えられ、女子にも教育の機会が与えられました。女子が体操するなんて、一般的には到底考えられない時代、体操は軽視され、まして活発に運動することは「はしたない」、女性らしさ、しとやかさを損ねると考えられていました。

ミス・バラ、ミス・タムソンは、アメリカで科学的に研究されたデルサルトル式体操（1811～1871）を修得し、これらを受け継ぎ、指導していました。この体操は現在の美容体操によく似ていたと思われる。デルサルトル式体操では、精神は身体の姿勢（身体を真っ

直ぐ保つことに特に注目した）によって女性の優美さ、礼儀正しさと結びつくと考えられ、日常生活の中で美しい身のこなしを求められました。このことは、近代女子体育の発展に大きな影響をもたらしました。

フェリスの教育は、モダンで進歩的で自由な校風と、もう一方では日本の教育に重点を置き、日本の伝統文化を認めながら、この両者を受け入れることを基軸にして、日本の教育の中で発展してきました。

現在私は、健康・スポーツの授業を担当している者として、今から 140 年も前に先駆けて女子教育が行われていた意志を繋ぎ、微力ながら授業に取り組んできました。西洋的身体活動としてのエアロビックダンス、身体表現によるダンス教育と、東洋的身体活動である、太極拳、カンフー、長拳など、色々な身体活動を授業で体験させています。

デルサルトルの身体の自由な表現や活動は、自由な精神と結びついているという理念を受け継ぎながら、新しい時代のスポーツにも挑戦していきたいと思っています。